

手紙で伝わる心

手紙を様々に楽しめる本を集めてみました。
SNS やメールも便利ですが、たまには手書きの手紙を送ってみませんか？

『ありがとう、ごめんね、そしてさようなら
家族からのラブレター』
重松 清編著／新潮社刊



「お父さん、悪い娘でごめんね…」重松清が感動し、時に笑い、あるいは涙した。市井の人々が綴った、家族へのとっておきのメッセージ41通を収録。ラジオ番組「マイ・ストーリー」の投稿作品を加筆・修正し書籍化。

もらって嬉しい。
手書きだからこそ伝わる気持ちとぬくもり。
Let's write!

『スタンプにきた手紙』
エミリー・ロッド作、さくま ゆみこ訳、たしろ ちさと絵／あすなる書房



ハツカネズミのすむネコイラン町には、チュウチュウ通りというすてきな通りがあります。その10番地にすむのは、郵便屋さんのスタンプ。自分宛の手紙がないのが悲しくて、新聞広告を出しますが…。

詩の世界を楽しもう

心に思うことや感動を一種のリズムにのせて奏でる詩の魅力を味わえる本を紹介します。



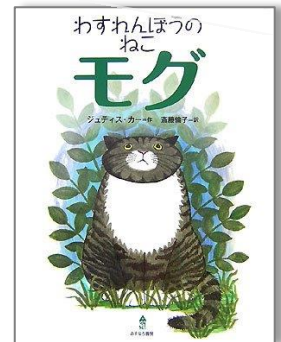
『こころ』 谷川俊太郎著／朝日新聞社
心はときに 自らを偽っていることに気づかない(「心は」より)
「生きる」を見つめた詩人・谷川俊太郎が、千変万化する「こころ」とらえた詩集。

安心感や調和をもたらす色

みどり色の絵本

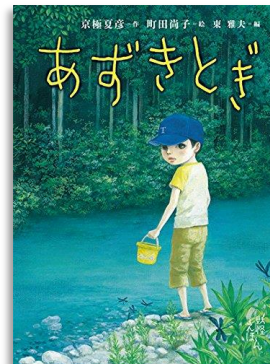


『ジャガーとのやくそく』
アラン・ラビノヴィッツ作、カティア・チエン絵、美馬 しょうこ訳／あかね書房



『わすれぼうのねこモグ』
ジュディス・カー作、斎藤 倫子訳／あすなる書房

『あずきとぎ』
京極 夏彦作、町田 尚子絵、東 雅夫編／岩崎書店



『いっぱいなかよし』
かさい まり作・絵／岩崎書店
とうさんは仕事でひっこしばかり。友達と別れるのがさびしいチェックは、少しでも仲良くしようと決めますが…。自分ではどうにもできないことに対して、がまんしたり、頑張ったり。それは未来の自分のためと思える絵本。

